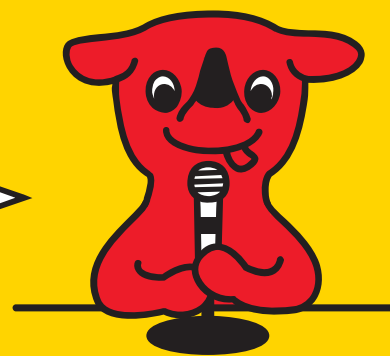


地域のリスクを知り、備える ちば地震防災ガイド

千葉県北西部地域に
お住まいのみなさん
「震度6強」の地震への備えは
できていますか？



千葉県マスコットキャラクター
「チーバくん」

千葉県内ではどこでも「震度6強」の揺れが起こる可能性があります。

「立ってられないような激しい揺れ」が発生！その時、何が起きる？

古い木造建物(昭和56年以前
に建てられ、耐震補強がされて
いないもの)の多くが倒壊



建物や家具・家電が倒れて
下敷きになり、そのまま火災に
巻き込まれる



建物が密集している場所では火災による延焼が
止まらない

多くの地域で停電・断水し、食事や風呂、トイレなど
が不自由に

海での地震の場合、沿岸部に
津波が襲ってくる恐れ
(一般にマグニチュード7以上の地震の場合、
津波が発生する恐れがあります)

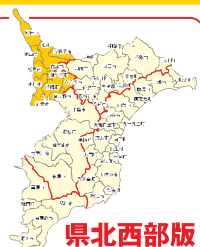


埋立地や河川周辺で液状化が発生する地域も

外出先から家に帰れない！
居場所がない！
あなたも「帰宅困難者」に



停電や通信規制の影響により、電話がつながり
にくくなる



県北西部版

【本ガイドの主な対象エリア】

市川市、船橋市、松戸市、
野田市、習志野市、柏市、
流山市、八千代市、
我孫子市、鎌ヶ谷市、
浦安市



次のページから、
お住まいの地域のリスクと
対策を確認しましょう





お住まいの地域のリスクを知ろう

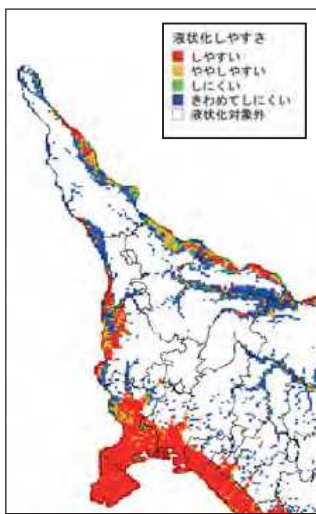
千葉県では、平成26・27年度に新たな地震被害想定調査を実施しました。ここでは、その調査結果やこれまでの県の取組みを基に、地震による地域のリスクを紹介しています。事前にリスクを知り、備えにつなげましょう。



県北西部版

【液状化しやすい?】

県北西部地域では、東京湾沿岸の埋立地や、江戸川・利根川の周辺などで液状化しやすい地域が広がっています。下の図は、震度6強の揺れがあった場合の液状化しやすさを評価したマップです(液状化対策は考慮していません)。

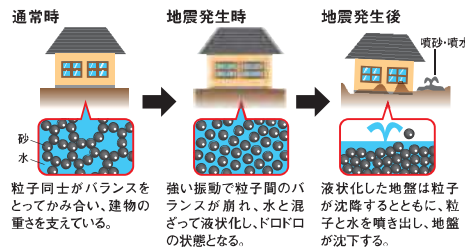


液状化しやすい地域

埋立地や河川沿いなど、砂地盤で地下水位が高い場所では、強い揺れにより液状化現象の発生が懸念されます。

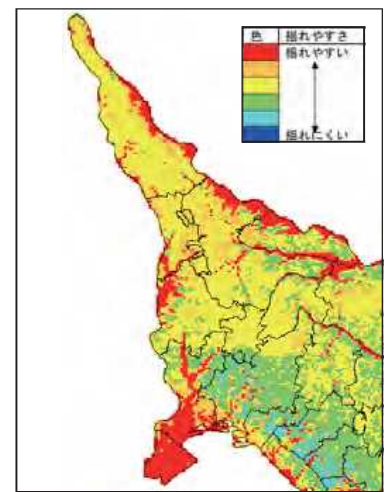
液状化により、地下の上下水道管やガス管、地上の電柱・電線が被害を受け、ライフラインが途絶する恐れがあります。また、道路の隆起や陥没、マンホールの浮き上がりなどにより道路通行が困難になる恐れがあります。

●液状化のメカニズム



【揺れやすい?】

県北西部地域では、東京湾沿岸の埋立地や、江戸川・利根川の周辺などで揺れやすい地域が広がっています。下の図は、地震が起きた際の地域の揺れやすさを評価したマップです。



【帰宅が困難に】

鉄道の利用者が多い県北西部地域では、鉄道の運行停止により、多くの方が帰宅困難者となります。

駅周辺の施設や道路には人があふれ、徒歩による帰宅は集団転倒に巻き込まれるなどの危険性が伴います。

また、道路上は損壊した建物や看板などの落下物、火災などの影響により危険な状態となっている恐れがあります。



【密集市街地での火災の恐怖】

建物が密集している地域では、倒れた建物などから火災が発生した場合、延焼が止まらなくなります。

倒壊した建物や看板などの落下物、液状化現象などにより、道路が通れなくなり、消防車の到着が遅れる恐れがあります。また、道路が狭い地域では、消防車が入れない場合もあります。

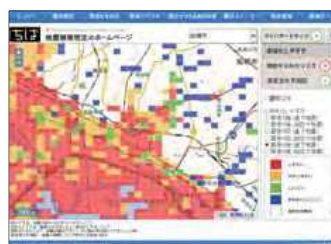


「ちば地震被害想定ホームページ」を活用して、地域の特徴を詳しく調べてみよう

「ちば地震被害想定ホームページ」では、お住まいの地域の「揺れやすさ」や「液状化しやすさ」を地図上で詳しく確認できます。また、その土地がどのような土地であるのか(台地、盛土・切土、明治期の水田など)も確認できます。その他、液状化への備えや被害想定調査の詳細な内容など、様々な情報がありますので、ぜひご活用ください。



ちば 地震被害想定 検索



「液状化しやすさ」マップ



「地形からみたリスク」マップ

＜URL＞ <http://keihatsu.bousai.pref.chiba.lg.jp/higaisoutei/index.html>



地震発生! そのとき何が起こる?



緊急地震速報

地震発生

- 大型家具の転倒
- 家屋の倒壊
- ビルの窓ガラス・看板の落下

1~2分 揺れが収まる

- 火災、津波の危険が発生
- 山崩れ、崖崩れの危険が発生

3分 避難の準備

- 床にはガラス片が散乱

5分 家族は?

- 電話はつながらない

10分 隣近所は?

- 消火・救出活動

3日 避難生活

- 自宅または避難所で
- 給水車、支援物資が届き始める
- 道路などの被害が大きければ、
- まだ支援は届かない可能性も

地震が来るまでのわずかな時間を自分の身を守るために最大限活用しよう

■あわてず身の安全を確保しよう!

机の下にもぐる、毛布をかぶる、頭をかかえ丸くなる等、状況に合わせて身を守り、揺れが収まるのを待ちます。屋外では、ビルからの落下物、ブロック塀などの倒壊、切れた電線などに注意しましょう。

■津波や山・けがけ崩れの危険がある地域にいる場合すぐ避難を!

- 火を止める
- ドアや窓を開けて脱出口を確保

- 靴を履く
- 非常持出品を手近に用意

- ラジオなどで正確な情報を確認
- 家屋倒壊の危険があれば避難する
- 離れた家族の安否を確認

電話はなるべく使わず、**災害用伝言サービス**を使いましょう。

- 隣近所で協力して消火・救出活動

- 備蓄で乗りきろう
- ラジオ等で情報を常に収集しよう
- 余震に警戒しよう
- 自主防災組織を中心に行動しよう
- 避難所では助け合いを大切にしよう

災害用伝言サービス

災害時電話がつながりにくい時のサービスです。毎月1日と15日、防災週間(8月30日~9月5日)に体験できます。家族など使用方法を確認しておきましょう。

●災害用伝言ダイヤル(NTT)

伝言の録音 **171→1**
⇒電話番号を入力

伝言の再生 **171→2**
⇒電話番号を入力

●災害用伝言板(携帯電話会社等)

インターネットを利用して安否確認の登録と確認ができます。詳しくは各携帯電話会社のホームページか、防災首都圏ネットをご覧ください。

伝言サービス 首都圏 検索

※防災首都圏ネットのホームページに、各携帯電話会社の災害用伝言板ページへのリンクがあります。

知っておこう!



【津波からの身の守り方】

津波から身を守るには、できるだけ高いところに自分が避難する他はありません。大津波警報、津波警報等が発表されたら、すぐ避難しましょう。

津波からの避難は徒歩が原則です。しかし、徒歩での避難が難しく、お年寄りなど円滑な避難のために車の利用が必要な場合、市町村の避難計画における車避難の方法に従い、安全に避難しましょう。



<津波の特性>

津波は繰り返して何度も来襲します。第1波が小さくても、より大きな波が来る可能性があります。また、地球の裏側で発生した地震による津波が、翌日日本に到達して被害を出したチリ地震や、震度3の揺れでも大津波が押し寄せた明治三陸津波地震などの例もあります。大きな揺れを感じないからといって安心してはいけません。

警報が解除されるまでは、避難を続けましょう。

【避難場所・避難所】

災害時に自宅が危険な場合、速やかに指定の避難場所へ避難しましょう。

- 避難場所…災害の被害を避けるため一時的に避難する公園・広場など。地震、水害など、災害ごとに指定されています。
- 避難所…災害で自宅に住めなくなった住民が臨時に生活する宿泊可能な施設。
- 福祉避難所…避難所での生活が困難な要配慮者のための施設。

～ 避難所でのマナー ～

避難所の生活では、ルールを守り、助け合いながら生活しましょう。避難所は、行政・施設管理者・避難者で協力して運営されます。避難者も積極的に役割分担を引きうけましょう。

～ エコノミークラス症候群 ～

長時間、足を動かさずにいると発症し、命にかかわります。車など狭いところで寝泊まりする場合には用心が必要です。

- 水・食料・簡易トイレを備蓄しましょう。
- 避難生活では、水分補給と運動を心がけましょう。

いのちを守るために 今できることは…



家屋の耐震化 ✓

以下に当てはまる建物は耐震診断を行い、必要に応じて耐震補強をしましょう。

- ☐ 昭和56年5月以前に建てられた
- ☐ 埋立地、低湿地、盛土造成地にある
- ☐ 老朽化している、シロアリや腐食の恐れがある
- ☐ 浸水・地震等大きな災害に晒されている
- ☐ 一階部分の壁が少ない、駐車場になっている
- ☐ 鉄筋コンクリート造り以外である
- ☐ 大きな吹き抜けがある

家具の固定 ✓

- ☐ 大きな家具はしっかり固定
(L字金具、ベルト、突っ張り棒等)
- ☐ 寝室・子供部屋に大きな家具は避ける
- ☐ 寝ている場所を安全に
- ☐ 避難経路が確保されるよう家具を固定し、配置を工夫する
- ☐ ガラスに飛散防止フィルムを貼る



地域の防災～自主防災組織

大規模災害が発生した直後、地域の助け合いが絶大な力を発揮します。地域住民による自主防災組織は、災害時の助け合いを目的に各地で組織されており、避難・救助の訓練などを行っています。

地域の防災訓練には、ぜひ積極的に参加しましょう。また、日ごろから挨拶をし、近所づきあいをしておくことも、とても大切です。



外出先で被災した場合の備え

災害時、一斉に徒歩で帰宅を始めると、救助活動の妨げとなり、また、集団での転倒や、建物からの落下物により、けがをする可能性があります。むやみに移動せず、安全な場所にとどまりましょう。

- ・ 職場に、水・食料・地図・スニーカー・懐中電灯などを用意しておきましょう。
- ・ 家族と安否確認の方法や集合場所を確認しましょう。

このステッカーが掲示されているお店は、水道水やトイレ、交通情報などを提供してくれます。

災害時帰宅支援ステーション



備蓄品の準備

日ごろの食料品を多めに買い置きし、古いものから順に使い、使った分を補充して行く備蓄方法を「ローリングストック」と言います。

比較的無理なく長期の備蓄が準備でき、特にカセットコンロがあれば、普段通りの温かい食事をとることができます。

ローリングストックのイメージ



【非常用持出品リスト】✓

以下は代表的な例です。高齢者がいる、赤ちゃんがいるなどの場合は、追加が必要です。

- ☐ 飲料水
- ☐ 非常食
(缶詰、栄養補助食品など)
- ☐ 携帯電話の予備バッテリー
- ☐ 懐中電灯(予備の電池)
- ☐ 携帯型ラジオ(予備の電池)
- ☐ ヘルメット、防災ずきん
- ☐ 救急医薬品
(常備薬セット、お薬手帳)
- ☐ 箸 ☐ 現金 ☐ タオル
- ☐ 着替え ☐ マスク
- ☐ 軍手 ☐ 雨具
- ☐ ティッシュペーパー
(ウェットティッシュ)
- ☐ ナイフ
- ☐ ライター(マッチ)、ろうそく
- ☐ ポリ袋、ゴミ袋

※通帳・印鑑などの貴重品は、すぐ持ち出せるようまとめておくとう便利です。



備蓄品の例 ✓

※赤字は必需品、青字は次に重要な品

【食料】	【災害時特に必要なもの】	【個人事情で必要なもの】
☐ 水(1人1日2L) ☐ カセットコンロ ☐ カセットボンベ ☐ 米 ☐ カップ麺 ☐ レトルト食品 ☐ 菓子 ☐ 栄養補助食品 ☐ 野菜ジュース	☐ 携帯型ラジオ ☐ 簡易トイレ ☐ 携帯電話の予備バッテリー ☐ 懐中電灯 ☐ ゴミ袋 【生活用品】 ☐ 食品用ラップ ☐ トイレ用ペーパー ☐ 使い捨てビニール手袋	☐ 常備薬 ☐ 生理用品 ☐ 粉ミルク ☐ 離乳食 ☐ オムツ・おしりふき 【その他あなたが必要なもの】

※備蓄は3日分以上が原則です。東日本大震災や熊本地震では、支援が行きわたるのに時間がかかりました。できれば一週間分があると安心です。

※本ガイドは5地域別(県北部、県北西部、県中央部、県東部、県南部)に作成されており、

全て千葉県ホームページからダウンロードできます。 [ちば地震防災ガイド](#) [検索](#)

発行：千葉県防災危機管理部防災政策課(平成28年9月1日発行)

連絡先：〒260-8667 千葉市中央区市場町1番1号 TEL 043-223-3697 FAX 043-222-5208